

I. 現地調査のカテゴリと調査概要

I. 現地調査のカテゴリと調査概要

調査は森林生態系多様性基礎調査の特定プロットを対象に行う。最新の森林生態系多様性基礎調査の情報に従うこと。最新の調査の情報がない場合は、入手可能な範囲で最新の情報に従う。

森林生態系多様性基礎調査のプロットは大中小の円形プロットが入れ子になっており（13 頁、図 6 参照）、大円は直径 35.6m である。

調査は「カテゴリ A」と「カテゴリ B」の 2 つに分かれる（図 1）。

「カテゴリ A」 枯死木、堆積有機物および 30cm 深までの土壌炭素蓄積量を調べる。

「カテゴリ B」 枯死木のみを調べる。

格子点 ID とカテゴリ

第四期である今期は、森林生態系多様性基礎調査の格子点 ID の末尾 0 についてカテゴリ A の調査を、格子点 ID 末尾 5 についてカテゴリ B の調査を行う。

【カテゴリ A の調査概要】

(1) 調査地概況調査

調査地に到達したら、まず、森林生態系多様性基礎調査の杭の存在を確認し、大円の東西・南北ラインを作成する。調査地の写真撮影を行い、概況を記載する。

(2) 枯死木調査

林床の倒木、根株と立枯木（直径 5cm 以上）の大きさを大円の東西・南北のラインに沿って計測する。根株の写真を撮影する。

(3) 堆積有機物量調査

大円内の 4 箇所において、林床に堆積している有機物の厚さの計測と写真撮影を行い、試料を採取する。各箇所での調査面積は 0.25m^2 ($0.5 \times 0.5\text{m}$)。

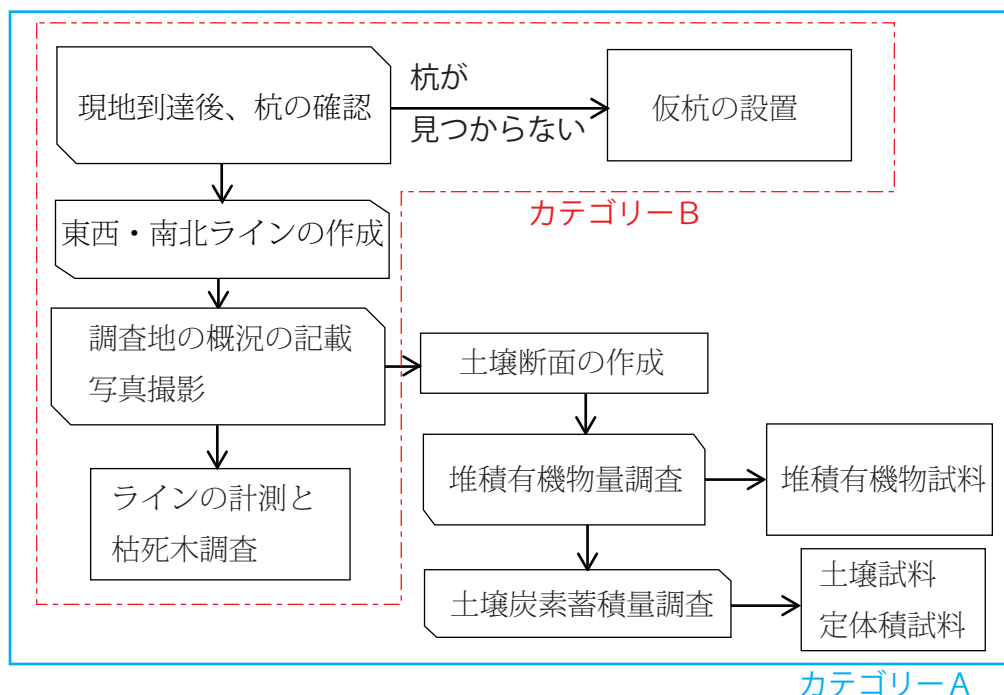


図 1 調査の流れとカテゴリー